

北海道開発局 帯広開発建設部 帯広道路事務所

# 一般国道241号 帯広北バイパス

円滑なモビリティの確保により周辺住民の利便性や安全性を高め、地域経済に大きく寄与。

順を追って供用されてきた、音更町市街地を通り、音更帯広インターチェンジと一般国道38号を結ぶ、12.5kmの一般国道241号帯広北バイパス事業がいよいよ完了します。

北海道横断自動車道との接続により、将来的には広域ネットワークを形成。十勝の暮らしをより豊かにしてくれる道路に、利用者アンケートの回答も大変好評です。



北海道開発局 帯広開発建設部  
帯広道路事務所 所長

船山 健次

## 問題山積の道路に新たな解決策

音更町市街地を通過する一般国道241号は、郊外型大型店舗の出店により、買い物客や商品を運ぶ物流の車両が集中するようになり、また帯広市のベッドタウン化に伴い人口も増加。それにより交通量は許容範囲を超え、慢性的な交通混雑に悩まされてきました。また十勝管内は北海道を代表する食料基地であり、農畜産物や農業資材などのスムーズな運搬が不可欠で、近年は工業団地も進出し大型車が増加傾向に。さらに北海道横断自動車道の音更帯広インターチェンジが計画され、従来の国道241号に結びつけるのが非常に難しく、アクセスの良い道路が望

まれていました。

そこでこれらの理由を背景に、国は一般国道241号帯広北バイパスを昭和58年度に事業化。昭和59年度用地補償着手、昭和60年度年工事着手、平成2年度から部分供用が始まり、今年秋には完全供用となる予定です。

一般国道241号は、弟子屈町から、音更町を經由して、帯広に至る約151kmの幹線道路です。それと平行するようにバイパスされ、音更町共和から帯広市西17条北1丁目に至る、4車線、延長12.5kmの帯広北バイパスは、物流の効率化や利便性の向上、個性ある地域の形成など、地域の流通や産業に大きく貢献するとの期待が寄せられています。

## 数字で明確に。

### 渋滞緩和、市街地を回避する大型車

「平成18年度の帯広北バイパス利用者アンケートによると、帯広北バイパスの利用について72%の方が「目的地に早く到着できる」をあげています」と話す、帯広道路事務所の船山所長。このほか、「快適に走行できて運転が楽」「危険が少なく安全」などがアンケートの回答として寄せられています。

実際に数値で検証してみると、一般国道241号の交通量がどのくらい緩和されたかがよく分かりま



す。道の駅「おとふけ」周辺の断面交通量をみると、帯広北バイパス供用以前の平成2年における一般国道241号の交通量は約14,000台／日でしたが、同バイパス供用後の平成17年には、一般国道241号が約11,800台／日に減少する一方で、同バイパスには約11,000台／日の交通量が発現し、両路線の合計で約22,800台／日に増加しています。

またそのうち、大型車は、平成2年の一般国道241号で約1,600台／日の交通量がありましたが、同バイパス供用後の平成17年には、一般国道241号が約560台／日に減少する一方で、同バイパスには約2,400台／日もの転換や増加がみられます。

つまり、帯広北バイパスに大型車が大幅に転換したことで、一般国道241号の交通混雑が緩和されたとともに、大型車にとっては工業団地や流通団地等とのアクセスが向上するという両面の効果が発揮されています。

### 地元経済の発展に寄与し、 しかも環境に配慮

帯広北バイパス周辺の十勝北部地域（音更町、土幌町、上土幌町）では、豆類の生産量が多く、大豆は道内の約9%、小豆は道内の約14%を占め、音更町の小豆は全国第1位の生産量を誇っています。

こうした大豆や小豆は、各JAの貯蔵施設で保管された後、JRコンテナや苫小牧港からフェリーで道外へ輸送されます。帯広北バイパスが整備されたことにより、市街地を避けての輸送が可能になったことで、ドライバーの負担も軽減されたという関係者からの報告もあります。

また十勝北部地域は畜産も盛んで、約8万頭の成体牛を飼育。中でも土幌町は肉牛飼育頭数全国第1位です。飼育された牛を家畜市場や食肉処理場へ輸



帯広北バイパスの整備により利便性が高まった

送するのも、帯広北バイパスを利用するようになってからは、道幅が広く、急カーブも少ないので安全性が高まったといえそうです。

北海道横断自動車道と帯広北バイパスの接続に伴い、平成11年から音更町IC工業団地が整備され、立地企業数推移は平成12年の6社から平成20年の20社へと、3.3倍増（音更町土地開発公社調べ）。帯広市西20条北工業団地においては、立地企業数推移は平成8年の14社から平成18年の76社へと、5.4倍増（帯広市産業開発公社調べ）。道路事業が地域産業の活性化において重要な役割を果たしていることが如実に表れており、周辺は大規模な物流拠点へと発展しています。

さらに将来的には北海道横断自動車道は札幌方面や釧路方面へもつながり、広域ネットワークの形成が、地域に数々のメリットを生み出すことへの期待感が高まっています。観光面においても、時間の短縮や快適な走行によって周辺の十勝川温泉や然別湖周辺の観光に寄与。そればかりでなく「当該事業区間を含む一般国道241号は、緊急輸送道路ネットワーク計画において“緊急輸送道路”に位置づけられています。渋滞が解消され、緊急輸送ネットワークが強化されることで、地域防災・危機管理の向上にも貢献しているはず。時代に即した道路作りにも着目し、再生アスファルト含材を、新規の道路舗装材としてリサイクル活用。地球に優しい、省資源化やコスト削減にも取り組みました」と話す船山所長。環境施設帯を設置しているのも、道路周辺の住宅への騒音などに配慮している点も特徴的です。

平成15年度に10.6kmの4車線供用が開始され、事業完了まであと僅かとなりました。順調に行けば平成20年度秋、より快適な道路環境がまた一つ北海道に生まれる予定です。



画像でリアルタイムに道路や峠の状況をチェック